

「ソーシャルスキルに関すること」

25 活動名「列に並ぼう」

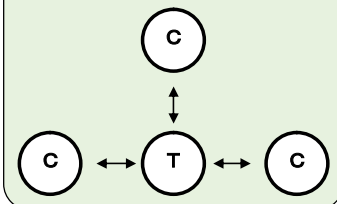
学習上又は生活上の困難の改善の視点

列に並ぶことを覚えていないため、体育の授業中や運動会、買物やトイレなどで、列に並べないで困る場面が多い、少人数で、人の後ろについて並ぶことを学習していく。

この授業で学習させたい目標

○列に並んで順番に待つことができる。

指導形態—Ⅱ（発展形態）



<主な活動>

児童の学習	支援
①児童Aと児童Bは、教師と向き合って立つ。	・ 2人の児童と教員1名で指導する。
②児童Bは、教師の指示を聞いて、児童Aの後ろに並ぶ。	・ 「列に並んでください」と指示して、対象児童Aと向きあって立つ。
③児童Aと児童Bの役割を交代する。	・ まず、対象児童Bが学習をする。
④2人でできるようになったら、3人目を学習に参加させる。	・ 児童BをAの後ろに並ばせる。指導は、段階的支援を活用し指導する。 例 並ばないなら、「並んでください」ともう一度言語のプロンプトを出す。5秒待つ、並ばないなら、指差しをする。

社会性の学習の視点

順番の理解

<支援の方法>

段階的支援

- 1 何もしない。
- 2 言葉のプロンプト
- 3 指差しのプロンプト
- 4 モデルのプロンプト
- 5 並ばせる。

<授業の成果>

「社会性の学習」の時間で、並ぶ練習ができれば、他の授業や校外学習でも、並ぶことが上手になってきた。トレイや店のレジで並ぶことを練習中である。

「ソーシャルスキルに関すること」

26 活動名「横断歩道を安全にわたろう」

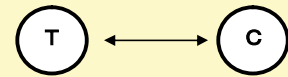
学習上又は生活上の困難の改善の視点

交通ルールを理解することが困難のため、まず、横断歩道の渡り方を学習する。

この授業で学習させたい目標

- 横断歩道での左右の確認方法を覚える。
- 手を挙げて安全に渡るスキルを身に付ける。

指導形態— I (基本の学習形態)

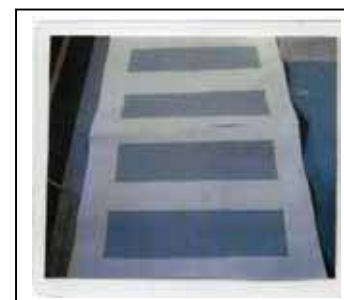


<主な活動>

児童の学習	支援
①教室で横断歩道の渡り方の本を見る。	・本に合わせて、左右の確認や右手を挙げるよう促す。
②教室に設置した横断歩道を渡る。	・教室の床の横断歩道を見ながら渡っているか確認する。
③校門前の横断歩道へ移動する。	
④教師の見本を見てから、一人ずつ横断歩道を渡る。	・順番表を用意し、視覚的に示す。 ・シートの写真と行為を合わせながら見本を示す。
⑤手を挙げたまま横断歩道を渡りきる。	・左右の確認など、難しい場合は、シートを見せて確認する。
⑥左右を自分で見て確かめてから渡る。	

社会性の学習の視点

移動・交通ルール



<授業の成果>

校外歩行や校外学習等の移動の際に、自分から横断歩道で止まり左右を確認して手を挙げて渡るようになった児童がいた。家庭での外出時に、横断歩道で止まり、左右を保護者と一緒に確認して手を挙げて渡れるようになる様子が見られた。

「ソーシャルスキルに関すること」

27 活動名「飲みたいものを買おう」

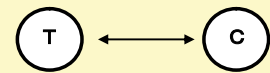
学習上又は生活上の困難の改善の視点

簡単な言葉やカード等での指示に応じることができる。

この授業で学習させたい目標

- 2、3種類の商品の中から好きなものを選択することができる。
- 財布からお金を出したり、お釣りを受け取ったりするなど買物の大まかな手順を理解する。

指導形態— I (基本の学習形態)



<主な活動>

児童の学習	支援
①店に見立てたスペースで、お茶やジュースの中から好きなものを1つ選択する。	・個人用の買物の手順表を用意する。 ・自分の飲みたいお茶を選択できるように、実際のペットボトルを用意する。
②レジカウンターに見立てたスペースで、カウンターに商品を置く。	・「おねがいします」と言えるように、文字カードを使う。
③財布からお金を出し、渡す。	・お金を出す位置に目印を付ける。
④お釣りを受け取る。	*金額は150円や200円など、実態に応じて設定する。児童により右図のカードを使用する。
⑤商品が入った袋を持ってお店スペースを出る。	・お釣りを受け取って、財布の中にしまうことができる。

社会性の学習の視点

買物の手順
金銭の支払い



<授業の成果>

自分の飲みたいものを1つ選択できるようになった。
始めはお釣りを受け取ることが難しかった児童もお釣りを財布にしまうことができるようになった。

「ソーシャルスキルに関すること」

28 活動名「コミュニケーションボードを使おう」

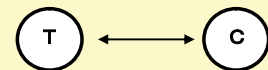
学習上又は生活上の困難の改善の視点

話し言葉で自分の意思を伝えることが難しいので、コミュニケーションボードの使い方を覚え、意思と伝える機会を増やす。

この授業で学習させたい目標

- コミュニケーションボードを利用して欲しい物を写真カードで選んで教師に渡すことができる。
- 将来に向けて身体に触れるなどの直接的な方法ではなく、誰に対しても理解できるような要求の方法を身に付ける。

指導形態— I (基本の学習形態)



<主な活動>

児童の学習	支援
①好きな色の写真カードを1つ選び、要求バーに貼る。	・2つ選択してしまった場合は、補助の教師が支援をして欲しい物を1つ選ぶよう促す。
②「ください」カードを①で貼ったカードの右につけて教師に渡す。	・「ください」カードをつけないで渡したり、「ください」カードの位置が違ったりした場合は、補助の教師が「ください」カードを要求バーの右に貼り付けて、主に指導している教師に渡すように促す。
③選んだ写真カードと同じ色を使って刺繍をする。	※①②の両方が難しい場合は、あらかじめ「ください」カードを貼っておき、児童は色の写真カードのみ貼るというように、児童の活動を少なくする。
④必要な道具や糸を写真カードで教師に伝える。	・刺繍が終わった後に必要なはさみを選ばなかった場合は、補助の教師がはさみの写真カードを指さし、今選ばなければならないカードを即時に伝える。

社会性の学習の視点 因果関係の理解



<授業の成果>

写真カードを利用して、自分の欲しい物を相手に的確に伝えることができるようになった。休憩時間に過ごしたい場所や物を要求できるようになり、好きな物の選択肢の幅が広がった。